

120 オナガ

(スズメ目)

兵庫県ランク:絶滅(Ex)

Cyanopica cyanus

繁殖個体群:Ex 越冬個体群:Ex 通過個体群:調

環境省ランク:指定なし

種の概要

本州北・中部では留鳥、本州南西部、九州ではかつて留鳥として分布したが、現在は絶滅。平地から山地の明るい林や農耕地、緑の多い住宅地に生息し、屋敷林や公園の高い木の梢に営巣する。昆虫類やミミズ類、果実、種子、小鳥類の卵などを採食する。

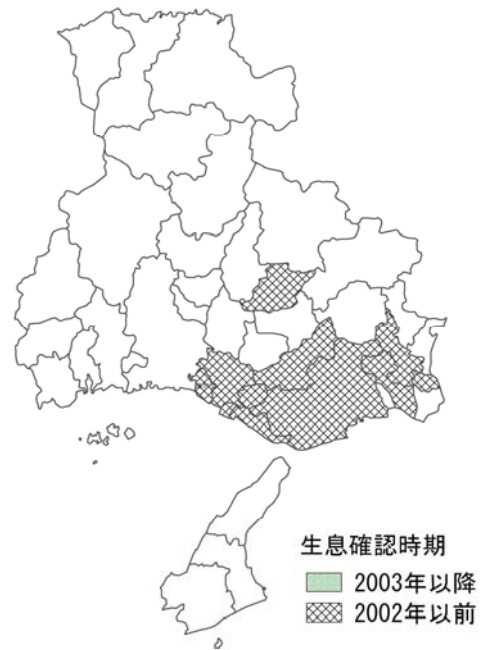
写真なし

国内分布

本州北・中部、本州南西部、四国、九州

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

(神戸市)、(明石市)、(西宮市)、(伊丹市)、(加古川市)、(西脇市)、(宝塚市)、(三木市)、(高砂市)、(稲美町)、(播磨町) ※かつて県内繁殖有



主要な選定理由

影響の人為性				生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性		
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

1960年代初めまでは瀬戸内側の海岸沿いの松林に多数が周年生息し、繁殖していた。当時の標本(成鳥、巣、卵)が兵庫県立人と自然の博物館に保管されている。その後急減し、1967年には明石市土山や神戸市玉津、西宮市から宝塚市に続く武庫川沿いの松林などで少数が繁殖するだけとなっていたが、1972年を最後に姿が全く見られなくなっている。

保護上の留意点

本種の現在の分布の南限(本州中部)を考えると、県内への自然な分布拡大は難しいと考えられる。一度絶滅した種を復活させるには再導入という方法があるが、その計画は慎重に進める必要がある。